

大空を彩る200基の風

こうした風揚げまつり

幸田町立中央小学校長 藤井 敦

こうした風揚げまつりは、風作り並びに風揚げを通じて、町民の親睦を深め、幸田町のふるさとづくりの一助を担っている。

まつりの歴史と概要

「こうした風揚げまつり」は、昭和51年度に開催された「第1回新春風揚げ大会」がそのはじまりである。平成10年度までは、大会に加えて「風作り講習会」も行われていた。平成9年度から「こうした風揚げまつり」と名称を変え、現在にいたる。

「こうした風揚げまつり」は、地元の地区や企業のみならず、全国から総勢1000名以上が集い、風づくりの技を競い合う光景が繰り広げられる。会場は、幸田町菱池の田園地帯である。電線や電柱のない水田地帯。風揚げには絶好の場所と言える。

風揚げ競技は、風の大きさ、種類によって、小風、中風、連風、全国、大



大風の最終調整

(2) 小風、中風、連風、全国の部

長辺が70センチ未満の小風、長辺が70センチ以上180センチ未満の中風、連風の部の申込みは、当日会場本部で受け付ける。伝統風から創作風まで自慢の手作り風100〜200基が空に揚がる。

(3) 大風の部

競技には、地元地区、企業、学校、消防団など20団体から30団体に参加する。チーム員がそれぞれの配置で、風や糸を支えてスタンバイする。風を読み、指揮者の号令で一気に走り出し、揚げ糸を引っ張り風を揚げる。丁寧なつくり、息を合わせたチームワークにより、風は暴れず、静かに大空へ揚がっていく。引く、緩めるを繰り返すことで風を操作し、最大150メートルまで



連風 (アーチ風)

糸を伸ばす。

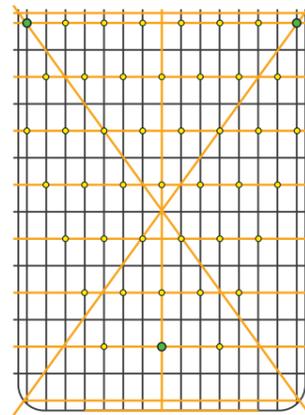
半年ほどかけて丹精込めて作られた大風が空に舞い、彩りを添える姿は圧巻である。その美しさと迫力に見守る来場者から湧く歓声が、大風制作者たちの心を満たし、親睦、交流が深まる。

(4) ステージイベント

風揚げ競技以外にも、ステージでの和太鼓の演奏や地元中学生によるダンスなど、来場者を楽しませるイベントが会場を沸かす。

まつりの現状と今後

年々知名度が上がっていく一方で、近年では大風部門の参加が減っている。理由としては、地元地区風関係者の高齢化が考えられる。幸田町では、若い



大風骨組

大風とは

風と部門が分かれている。なかでも目玉は、2畳〜16畳の大風を揚げる大風部門である。なお、長年の活動実績が認められ、平成24年度には経済産業大臣賞、平成25年度には文部科学大臣賞という新たな賞が大風部門に加わった。

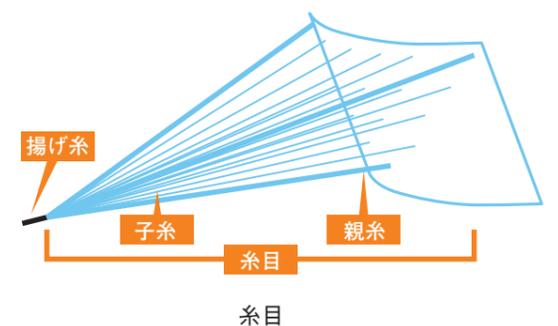
風は「骨組」「風紙」「風糸」から成る。骨組は竹を材料とし、「真竹」と「女竹」という竹を使用する。真竹は、細く割って削りヒゴという状態に加工し、組み合わせる。柔らかくてよくしなる女竹は、ヒゴで組んだ骨組の補強をする。竹と竹は糸で縛って固定することができるだけ軽くすることが基本である。風紙は和紙を貼り合わせて使用する。下絵をもとに墨で輪郭を描き、そして色を付ける。絵の具は、大空で太陽の光に最も美しく映える染料を主に使用する。骨組と風紙はノリで密着させる。風糸は、人が引っ張る「揚げ糸」、風の上部両端と下部中央の3箇所につける「親糸」、風全体に付ける「子糸」がある。風と揚げ糸をつなぐ親糸と子

世代にも風の伝統を引き継いでほしいと、地元の風づくり名人を講師に招き、風づくり講習会を開催するなど、伝統の継承に力を入れている。その結果、平成27年度には新しい行政区（桜坂区）が参加、令和元年度は六栗区、幸田高校が参加するなど、新しい団体の参加があった。

相互交流や親睦を趣旨とした「こうした風揚げまつり」も、近年では観光の目玉や正月の風物詩としてさらなる賑わいを見せている。平成25年度からは写真コンテストを開催し、令和元年度は1600点の応募があった。ここ数年は2万5千人に上る観客が会場を訪れている。今後も「こうした風揚げまつり」がさらに充実し、より多くの人々



舞い上がる直前の大風



糸目

糸を糸目と言い、風の角度を決める重要な糸である。糸目は風の高さの3倍程度の長さになるように付けられている。子糸は、風の大きさにより本数や付ける場所が異なり、1本の糸に掛かる力を分散する。

大風の制作には、大きい物だと半年近くの期間を要する。

※風の作り方は地域によって異なる。

まつり当日

(1) 最終準備

まつり当日の風をみて、風の反り具合の微調整や斜交い、背骨の調整を行う。風を寝かせ、高さを調節し、全ての張り糸が水平になるように、細心の注意を払って最終準備を行う。

に伝統文化である風揚げに親しむ機会を提供し続けることを願う。

中央小学校風クラブ

中央小学校には、クラブ活動の1つとして「風クラブ」がある。平成4年度に発足した「風クラブ」は、今年度30年目に入った。地元の風名人を講師に招き、毎年風1基を作成し、「こうした風揚げまつり」に参加している。令和元年度には、大風の部で教育長賞を受賞した。今後も風づくりの伝統継承に貢献していきたいと考えている。

【資料・写真提供】

幸田町教育委員会生涯学習課
☎0564・62・1111 内線195



大空を彩る大風



中央小学校の大風